

日本原子力学会核燃料部会 平成21年度第三回運営委員会議事録

日時 : 平成21年9月17日(木) 10:30~11:55
場所 : 東北大学 環境科学研究科講義棟 2階第2会議室
出席者 : (順不同 敬称略)

岩田部会長、安部田副部会長、阿部委員、伊東委員、土内氏(大平委員代理)、緒方委員、北嶋委員、木下委員、小林委員、佐藤(修)委員、高野委員、儀宝氏(田内委員代理)、佐藤(隆)氏(野田委員代理)、橋爪委員、原田委員、平井委員、杉山氏(更田委員代理)、真寄委員、山脇委員、草ヶ谷氏、磯部委員(21名)

議事

1. 前回運営委員会議事録案確認

磯部委員から、No.3-1前回運営委員会議事録案が提示され、了承された。もし気づき事項があれば後ほど修正することとした。

2. 総会資料案確認

磯部委員から、No.3-2第33回総会資料案が提示され、了承された。

3. 運営委員交代の件

磯部委員から、No.3-3に基づき(株)グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン、伊東委員から草ヶ谷委員への交代が連絡され了承された。また、既に運営委員会了承済みであるが、7/2付け高島委員から真寄委員(関西電力)、7/13付け松浦委員から北嶋委員への交代があったことが紹介された。伊東委員、草ヶ谷委員、真寄委員および北嶋委員から挨拶を頂いた。

4. 平成21年度予算途中報告および平成22年度予算案

磯部委員から、No.3-4に基づき平成21年度予算途中報告がされた。夏期セミナー不足分の145640円が計上されている(補足説明は6.項)。

その後の支出として、昨日9/16の日韓セミナーの会場費を学会より請求される可能性がある(核融合、材料、核燃料で3等分)。また韓国側懇親会の費用(6000円x3)負担あり。これについては、3部会で分担も検討する。

次回12月の運営委員会で来年度予算を庶務幹事(磯部)より提示する。

5. 平成22年「春の年会」企画セッション、部会活動

平井委員から、No.3-5-1に基づき、「先進的原子力システムにおける燃料材料」研究専門委員会の活動をベースとする企画セッション検討状況が説明された。詳細は今後、メールベースで固める。また核燃料部会は同研究専門委員会および材料部会との共催とする考えである旨、平井委員より材料部会側に伝えていただく事とした。

併せて、No.3-5-2に基づき、同研究専門委員会の次回委員会の開催予定が紹介された。

続いて、今後の部会としての活動について議論された。例えば、「先進的原子力システムにおける燃料材料」研究専門委員会の継続が挙げられているが、核燃料部会のポジションアップを主目的とし、目標設定、方式(研究専門委員会又は勉強会等)など全体を整理することにし、次回運営委員会あたりまでに議論することとした。⇒11.項関連参照。

6. 平成21年度夏期セミナー報告

伊東委員から、No.3-6に基づき7/2-7/4に開催した3部会(核燃料-材料-水化学)合同夏期セミナーの報告がなされた。初めての試みであったが、良かった部分(専門外の情報収集、分野間交流促進)と必ずしもそうでない部分(専門外で理解困難)がアンケート結果から浮かび上がった。参加者は106名で想定より下回り、また学生への補助をしたこともあり損金(145,640円)が出たが、前回運営委員会でアナウンスし承認された20万円以内であった。今後のことを含め部会間での分担について、岩田部会長より両部会長に相談していただく事とした。

7. 平成22年度夏期セミナー準備状況

安部田副部会長から、No.3-7に基づき来年の夏期セミナーの企画立案状況が説明された。今回は核燃料部会単独開催、場所は九州「霧島観光ホテル」、日程は8/5から8/7。大先輩による基調講演、フランスとの文化交流、MOX燃料などが計画されている。

8. 部会報企画立案状況

北嶋委員から、No.3-8-1に基づき夏版の編集状況が説明された。7の関係機関便りの執筆者はHaldenの方よりされる。引き続き、No.3-8-2に基づき冬版の企画状況が説明された。巻頭言、会員の声につき三菱グループで担当する旨、安部田副部会長より提案があった。その他、提案をメール等で受け付けることとした。

9. PSWG「プルサーマルの安全性」資料について

日本原燃・佐藤氏(野田委員代理)から、No.3-9-1および3-9-2に基づき解説記事案が紹介された。・何かコメントや決定事項はありましたでしょうか？

「プルサーマルの安全性」について資料は別途メールで各委員に送付しており、コメント等あれば、野田もしくは佐藤までメールにて連絡することとした。また、岩田部会長より資料の対象を明確にして(一般人なのか、あるいは学生、学会員なのか。)、それに合わせて修正することのコメントがあった。

10. 部会等運営委員会報告

安部田副部会長から、No.3-10-1～3に基づき部会等運営委員会の報告がなされた。来年春の年会での「JCO事故10周年企画セッション」への提案要請や国際会議「PBNC」の国際技術プログラム委員会委員の関係4部会(熱流動、バックエンド、原子力安全、核燃料)持ち回り要請などがあった。

11. 今後の国際対応および各種担当について

岩田部会長から、No.3-11-1に基づき2011年WRFPMの中国側からの開催案が紹介された。先のTop Fuel2009期間中、ANS, ENS, KNSから中国開催の同意が得られたとのこと。

安部田副部会長からNo.3-11-2に基づき来年のLWR Fuel Performance MeetingのCall for papersが紹介された。

続いて、安部田副部会長からNo.3-11-3に基づき、国際活動と国内企画の各懸案について担当を決める必要性が説明された。このため部会の中に、運営幹事会(企画委員会に名称変更)を設け、そこで議論することが提案された。尚、企画委員会を設けた場合、そこでの議論・議事は運営委員会に報告する。また、同委員会設立に際し、部会規則の改定も検討する等のコメントがあった。

12. その他

1) 次回運営委員会・総会

次回第四回運営委員会は、年内12月前半を予定。

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)

(c) [日本原子力学会核燃料部会](#) : 2010-3-2